

【議事次第】

日時：令和6年3月12日（火） 14時00分～16時30分

場所：川崎市役所臨海部国際戦略本部
キングスカイフロントマネジメントセンター

1. 開会

2. 川崎市 建設緑政局 広域道路整備室 室長 挨拶

3. 議事

- (1)第18回河川河口の環境アドバイザー会議 指摘事項の確認
- (2)令和5年度定期環境モニタリング調査（秋季・冬季）の結果及び
令和5年度環境モニタリング調査報告書（案）について
- (3)令和6年度の事後調査計画について
- (4)その他

4. 閉会

【出席者】

■委員（※敬称略）

風呂田 利夫 東邦大学 名誉教授

「専門分野：生態系（底生動物、魚類）」

中村 由行 元 横浜国立大学 都市イノベーション研究院 教授

「専門分野：水環境（環境シミュレーション、水環境工学）」

桑江 朝比呂 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域長

「専門分野：水環境（鳥類、生態系モデル）」

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

1. 地形

①広域調査

(1) 調査目的

- 多摩川の通常時の変動と工事による変動、橋梁架設完了後や埋戻し後の変動を把握するために、計画区間の下流側から上流側までの広域の地形を調査する。
- 河川内の干潟形状(干潟ライン)の推移状況を把握するために、深淺測量を実施する。
- R1.10月の東日本台風等による大規模出水により河道内の地形が大きく変化したことから、状況を把握するため調査を実施する。

(2) 調査内容

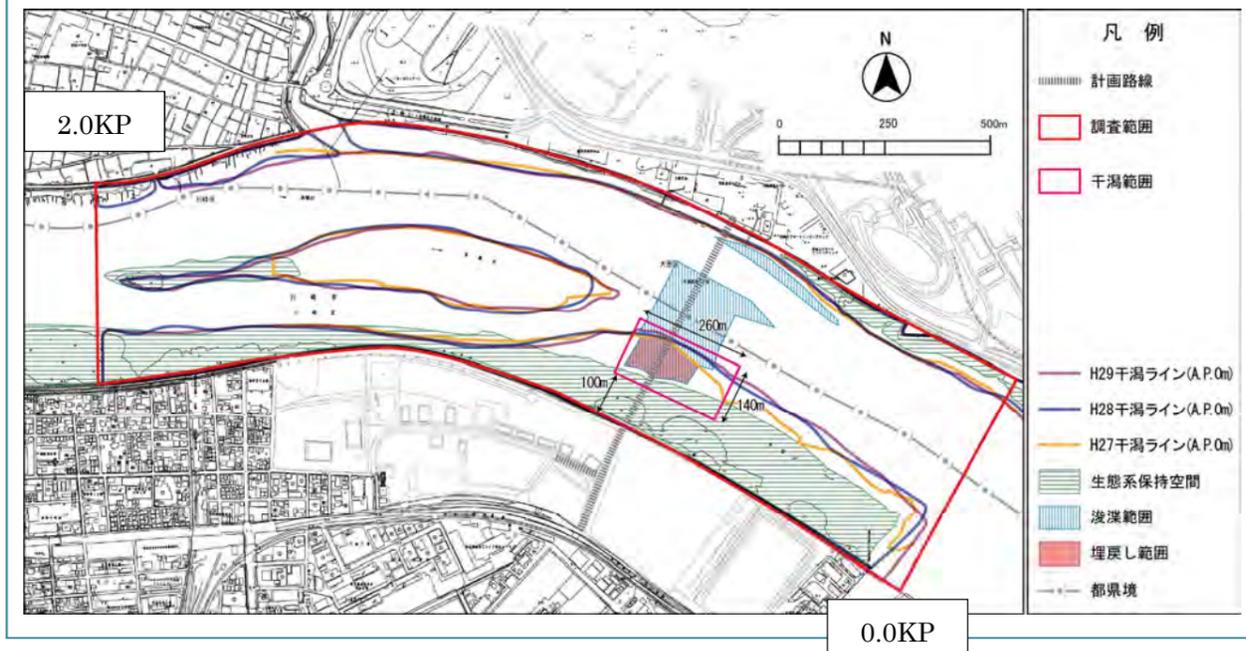
- 地形測量

(3) 調査手法

- レベル測量(精度±5cm以内)、深淺測量(精度±10cm以内)により平面図・横断面図を作成。

(4) 調査範囲

- 干潟および河川内
(多摩運河との合流部からねすみ島付近までの約2kmの範囲、100m間隔)



(5) 調査時期

- 秋季調査は令和5年10月17日～21日に実施した。

項目	回数	調査実施日	2023年(令和5年)												2024年(令和6年)			調査地点
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
干潟の地形変動(広域)	2回	春季: 令和5年5月17～22日		●														多摩川0kP～2kP
		秋季: 令和5年10月17～21日																

- : 調査実施

(6) 調査結果

<概要>

- 東日本台風以降は大きな出水もなく、干潟地形に大きな変化は生じていない。局所的には中州や右岸下流で以下のような変化が生じている。

<R5年度春季からの変化>

- R5年度春季以降、水位に特別大きな変動は見られなかった。(参考資料 参照)
- R5年度春季に右岸下流でA.P.=0m以下となる範囲(→部参照)が新たに確認されたが、R5年度秋季では同箇所はA.P.=0m以上となっている。なお、R5年度春季の結果についても測量の結果上はA.P.=0m以上となっているが、見かけ上では干潟として水面上に露出しているのが確認されており、干潟の分断は生じていない。
- 中州は東日本台風により小さく2箇所に分かれた形となった。R5年度春季では、下流側の中州は下流端部の縮小が確認されており、R5年度秋季では大きな変化は確認されなかった(→部参照)。

<その他>

- 上流に位置する中州(ねすみ島)はR5年度秋季で大きく縮小が確認されており、ほとんど水面上に出現しない状態であった。(→部参照)。



図1-1(1) 干潟地形変化(平面図)

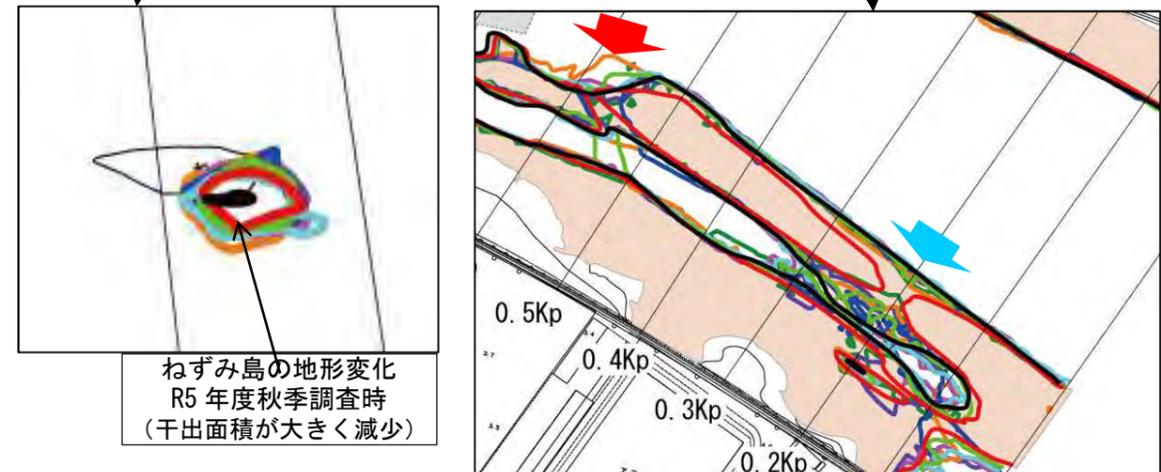


図1-1(2) 干潟地形変化(広域・拡大)

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

<埋め戻し後の状況(詳細)> ※R3.7月に浚渫範囲の埋め戻し完了

●R3.7月の埋め戻し後、各横断(kpライン)における地盤に大きな変化はみられていない。

- ・過年度から0.7kpのラインでは右岸側の凹凸が確認されており、R5年度秋季では昨年同様に比較的なだらかな凹凸の傾向が確認された(参照)。
- ・昨年度0.8kpのラインでは表面的に細かな凹凸が確認されたが、R5年度秋季では比較的なだらかな傾向であり、埋め戻した地盤は概ね維持されていると考えられる(参照)。

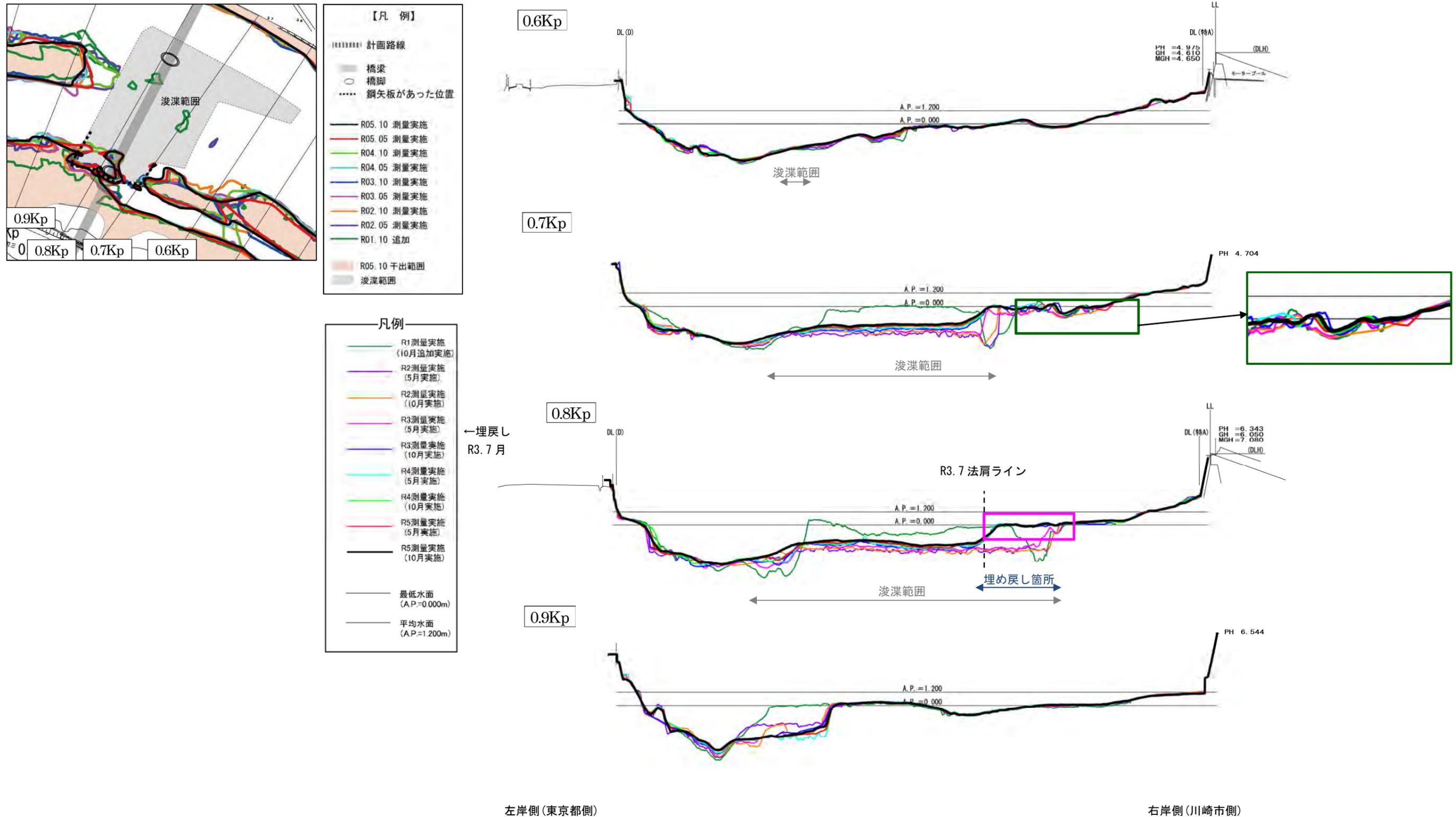


図1-2 干潟地形変化 (R1.10月出水後の変化)

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

②干潟調査

(1) 調査目的

- 浚渫時から埋戻し期間までの計画区周辺の干潟の地形変動及び埋戻した干潟の長期的な地形変動、仮設鋼矢板設置による干潟地形への影響を把握するために、生態系保持空間と浚渫境界部に設けた干潟(緩衝帯)の地形変動を調査する。
- 干潟浚渫箇所及びその周辺の推移状況を把握するために、直接水準測量を行う。

(2) 調査内容

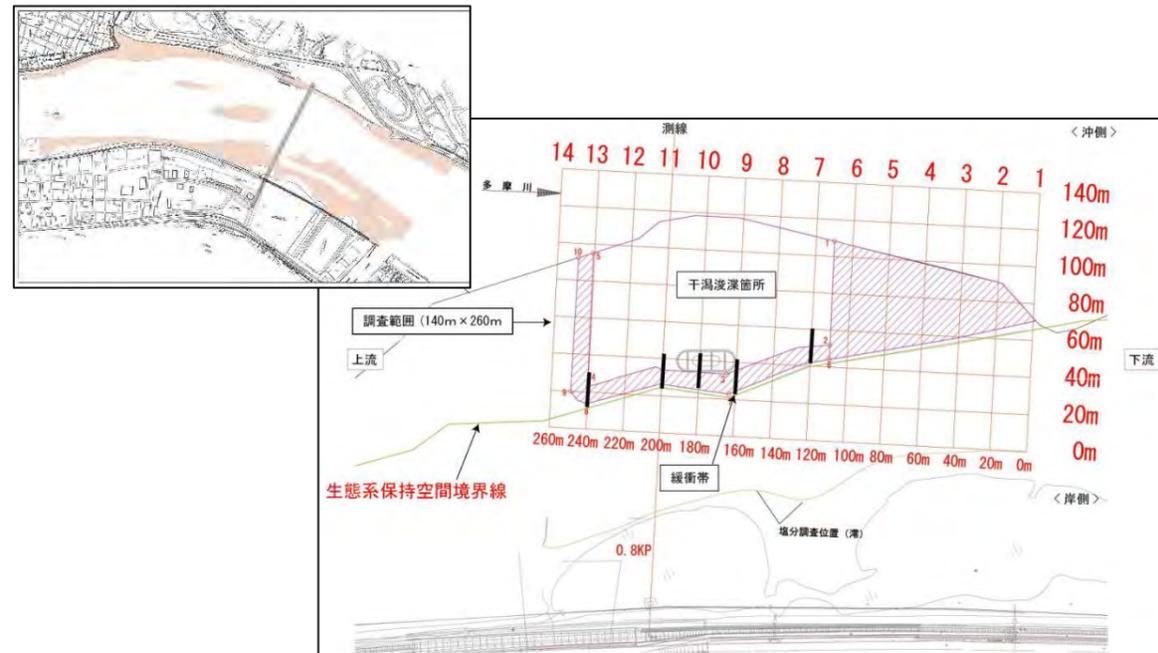
- 地形測量

(3) 調査手法

- レベルによる直接水準測量により、調査範囲の14測線を20m間隔で実施。
- 緩衝帯の5測線は1m間隔で実施。

(4) 調査範囲

- 干潟浚渫箇所及びその周辺



(5) 調査時期

- 秋季調査は令和5年10月17日～21日に実施した。

項目	回数	調査実施日	2023年(令和5年)												2024年(令和6年)			調査地点	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
干潟の地形変動(干潟)	2回	春季: 令和5年5月17～22日 秋季: 令和5年10月17～21日		●							●								干潟浚渫箇所及びその周辺

●: 調査実施

(6) 調査結果

<概要> ※R3.7月に浚渫範囲の埋戻し完了

- 橋脚まわりの上流側のくぼみの状況、橋脚下流側の等深線の状況(A.P.=0m以上・未満の分布)に大きな変化はない。
- <R5年度春季からの変化>
- R5年度春季では、橋脚まわりの上流側で洗掘によるくぼみ範囲の拡大が確認されたが、R5年度秋季ではくぼみの最深部は0.30mほど浅くなり、くぼみ形状の変化が確認された(○参照)。R5年度春季までと比較し、夏以降降雨が少なく流量が減少したことが原因と推測される(参考資料参照)
 - R5年度秋季では、春季と同様に橋脚より上流側は-0.10m程度の状態が広がり、下流ではNo.6+80m付近でA.P.-0.60m程度のくぼみが確認されたが、No.9+60m付近くぼみは見られなくなった(○、○参照)。

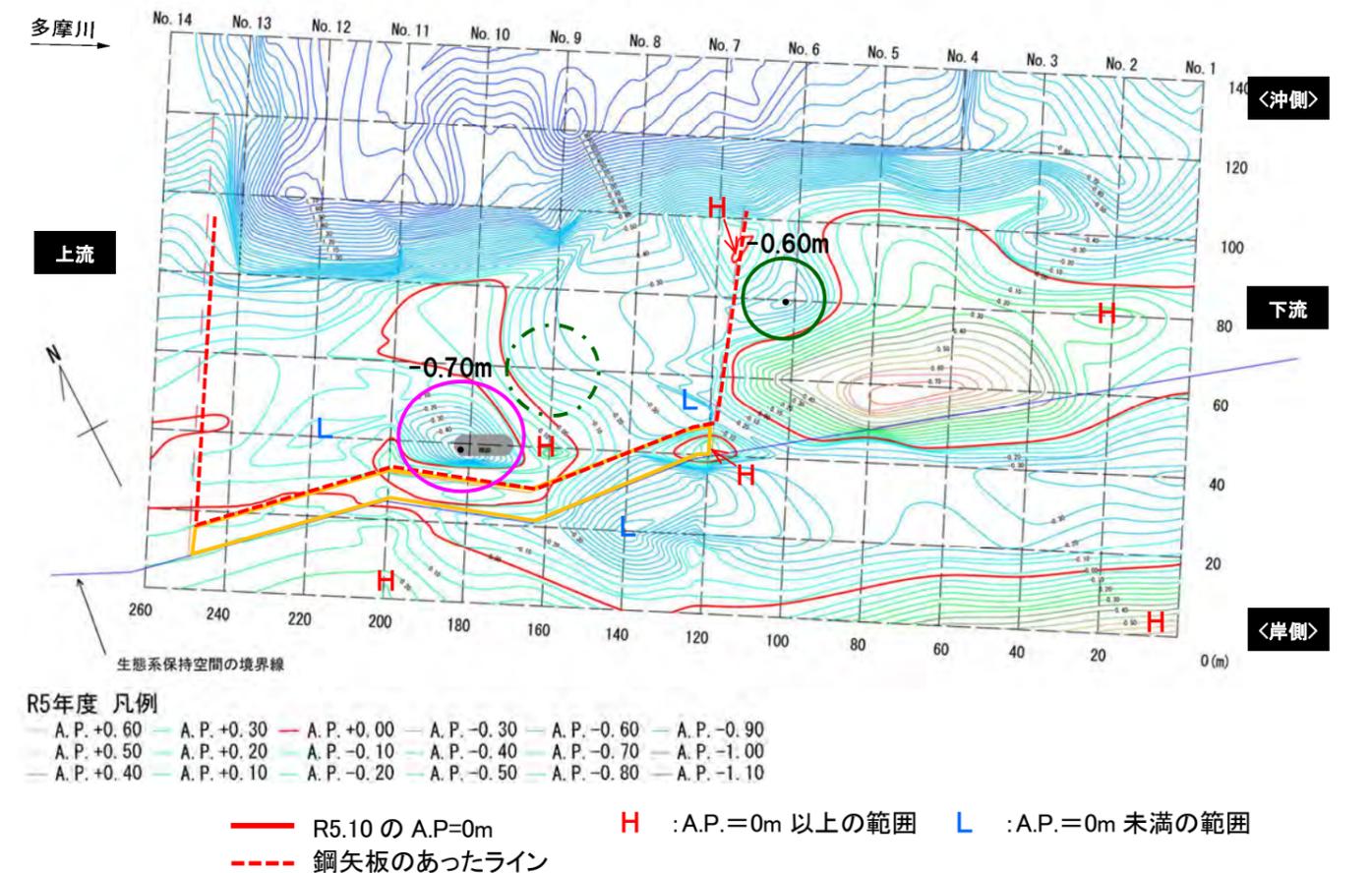


図1-3 R5.10月干潟測量結果

【補足：等深線図コンターの作図表現について】

広域調査の横断面及び干潟調査の等深線図は船上から音響測探器を用いて計測した結果であり、干潟調査の横断面は格子点において20mピッチでトータルステーションを用いたレベル測量により計測した結果である。くぼみ発生箇所については、地形状況を詳細に把握するために1mピッチでレベル測量を行い、等深線図を作成しており、くぼみの状況は正確に表現されている。なお、広域調査の0.8kpの横断はくぼみの発生箇所より上流側にずれており、くぼみは表現されていない。

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

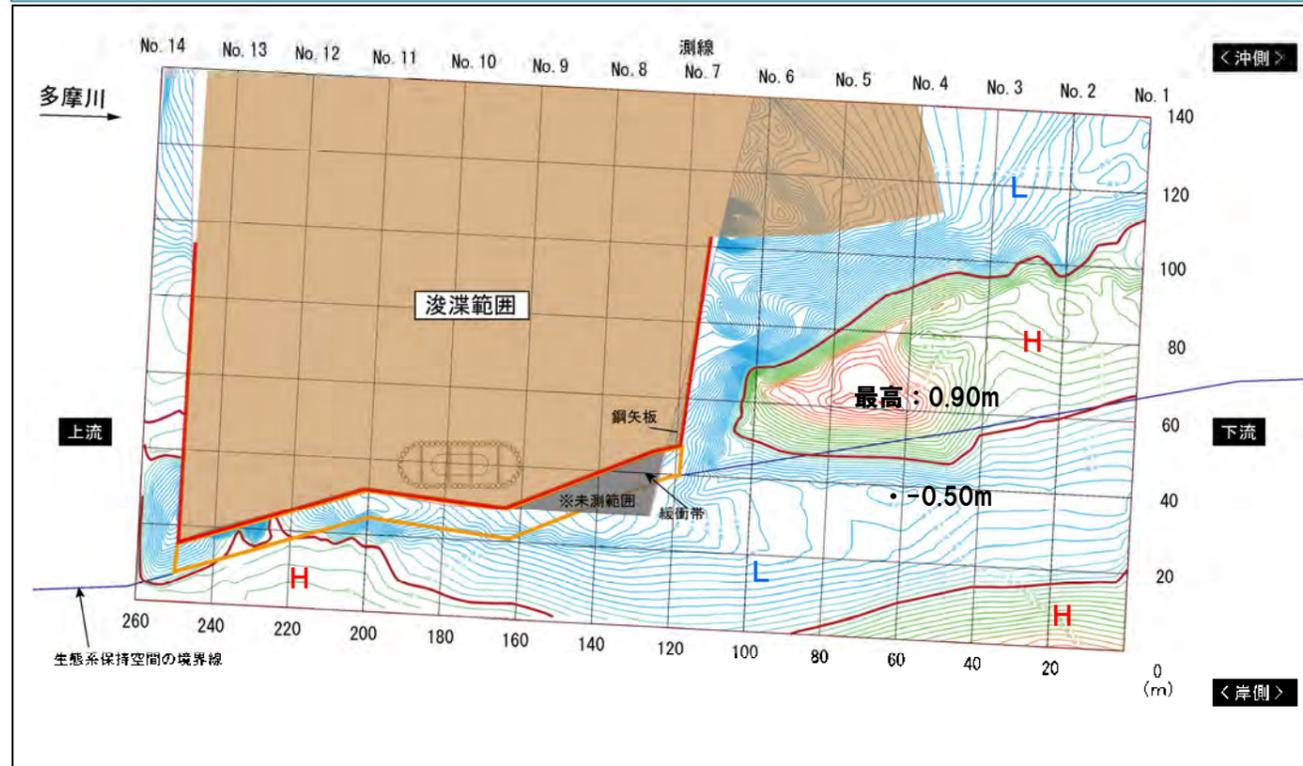
■埋戻し前、R3.7月（埋戻し後）からR5.10月までの干潟地形変化

●埋戻し後にみられた沖側への土砂流出も進行しておらず、橋脚の上・下流側の地盤高も大きな変化がなく、安定しつつあると考えられる。

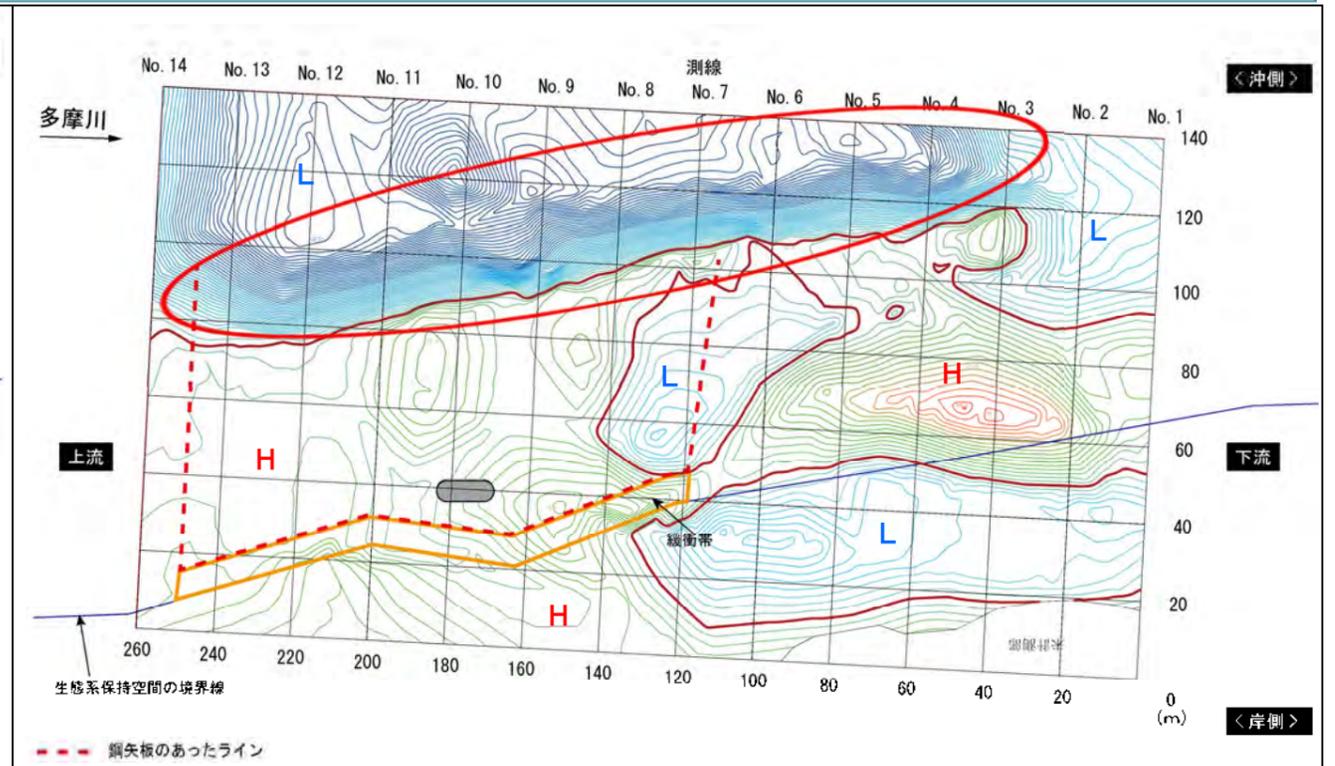
・埋戻し後はNo.13+80m～No.3+120の範囲でA.P.=0mとなっており、R5年度秋季では橋脚下流でくぼみの位置や凹凸のずれがあるが、沖側方向への傾斜に大きな変化などは発生していない。（○参照）

・R3.10月にはNo.9～No.5の範囲で-0.50～-0.65mのくぼみが発生しており、No.9～No.5の範囲ではR5.5月までくぼみの位置ずれ・箇所数、深さの変動が見られたが、概ね変化がなかった。

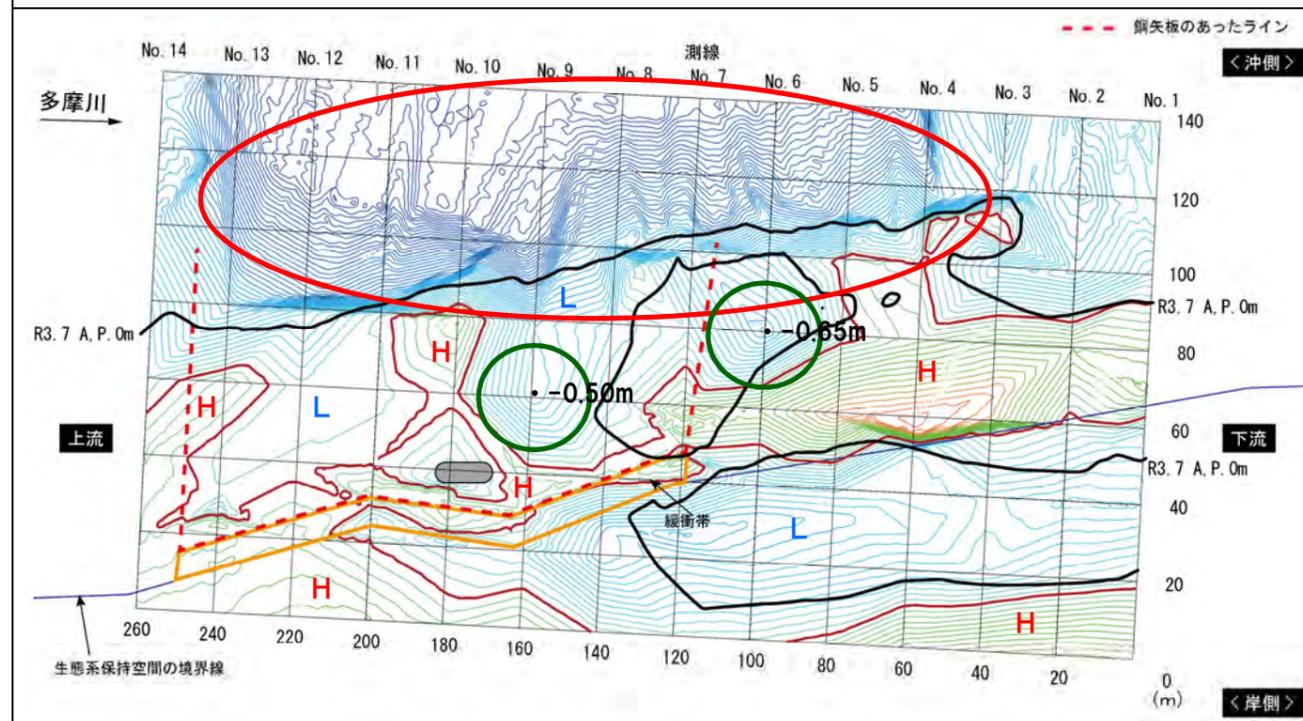
R5年度秋季は、くぼみの箇所数が1箇所になったものの、過去と概ね同様の状況であった（○参照）。



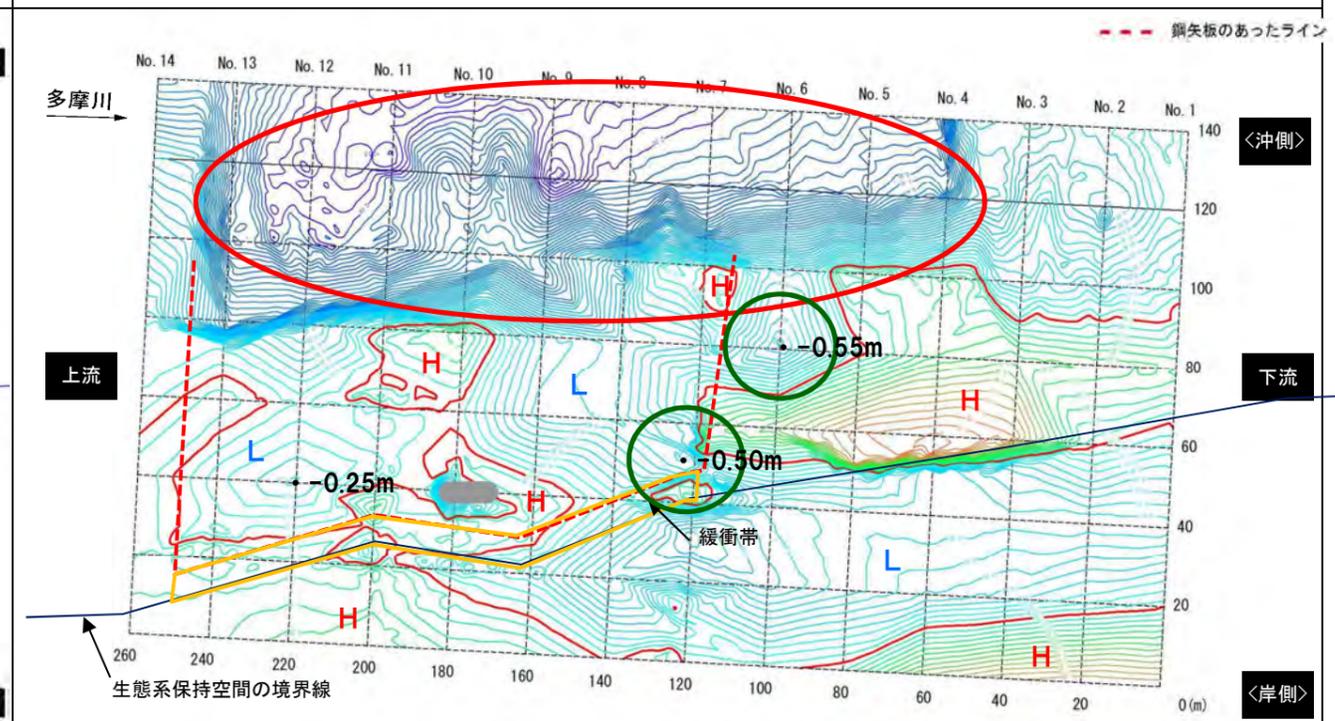
R3.5月干潟等深線図



R3.7月(埋戻し後)干潟等深線図



R3.10月干潟等深線図



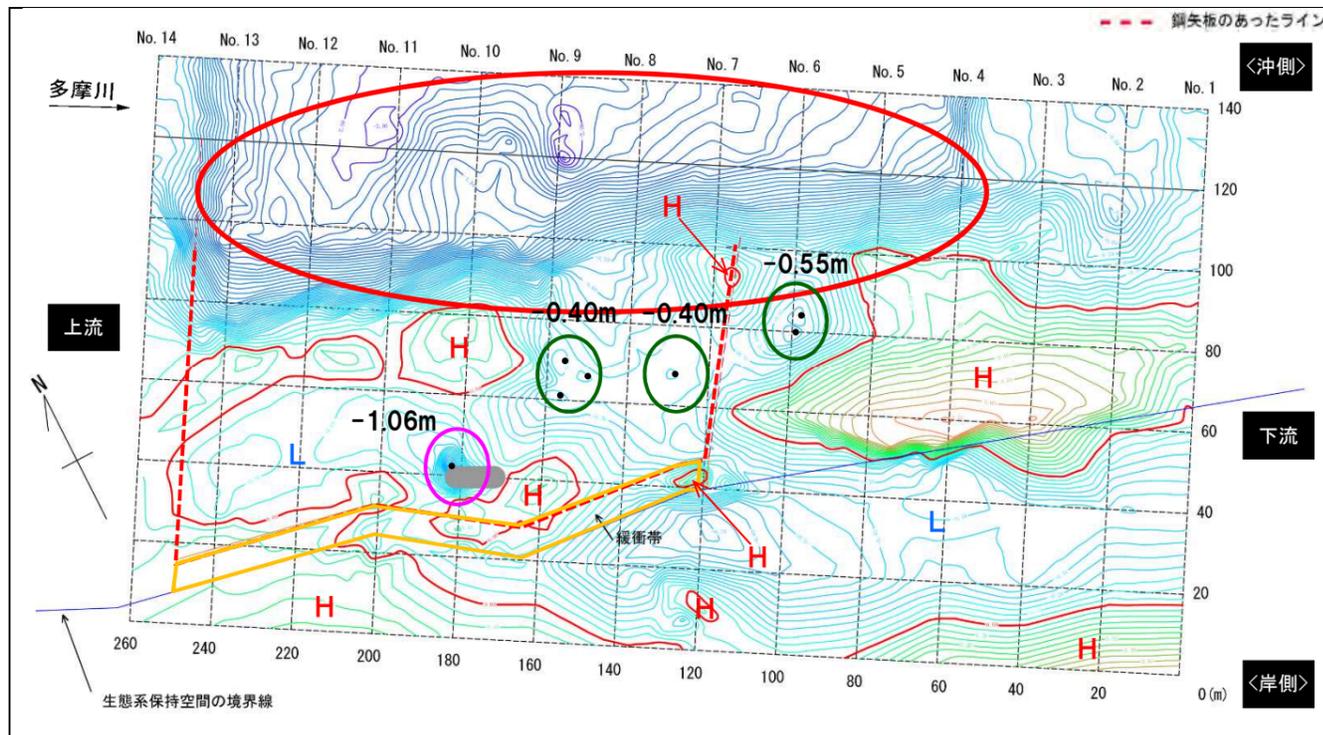
R4.5月干潟等深線図

R4年度 凡例

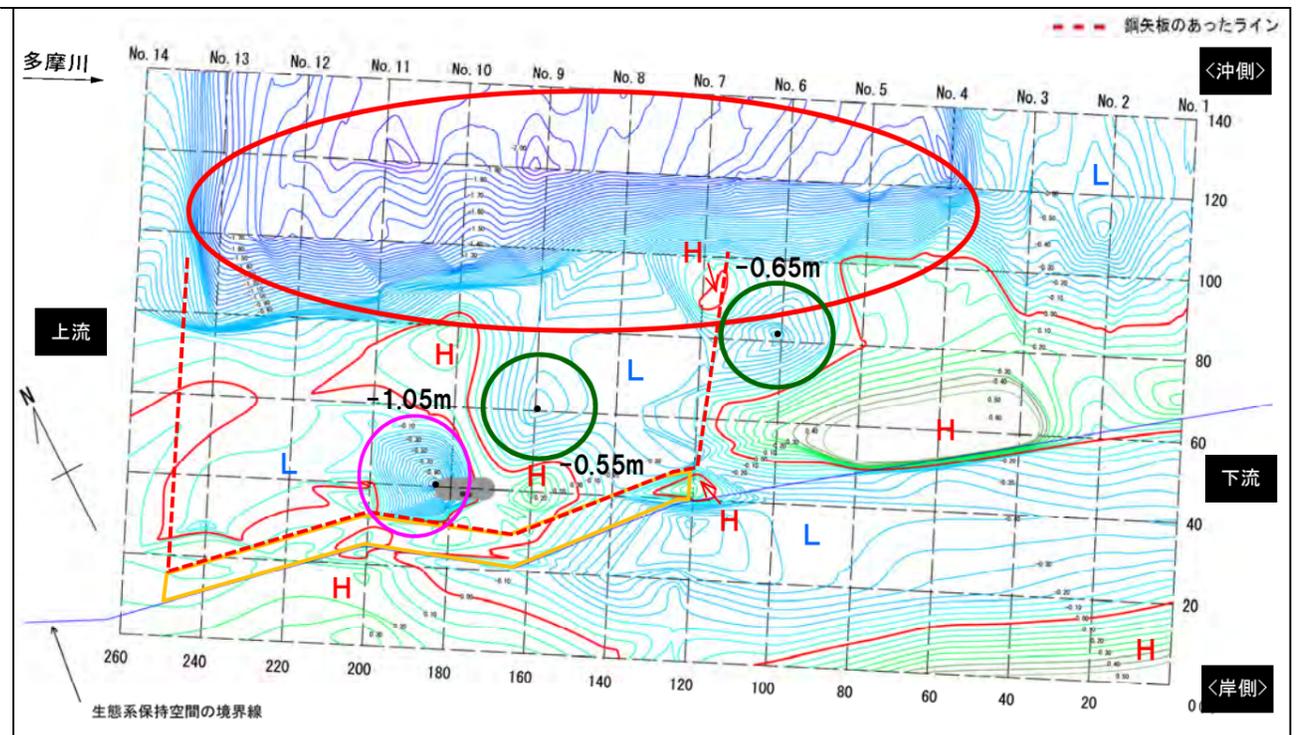
H : A.P.=0m 以上の範囲	L : A.P.=0m 未満の範囲				
- A.P.+0.80	- A.P.+0.50	- A.P.+0.20	- A.P.-0.10	- A.P.-0.40	- A.P.-0.70
- A.P.+0.70	- A.P.+0.40	- A.P.+0.10	- A.P.-0.20	- A.P.-0.50	- A.P.-0.80
- A.P.+0.60	- A.P.+0.30	- A.P.+0.00	- A.P.-0.30	- A.P.-0.60	

図 1-4(1) 埋戻し前後の干潟地形変化

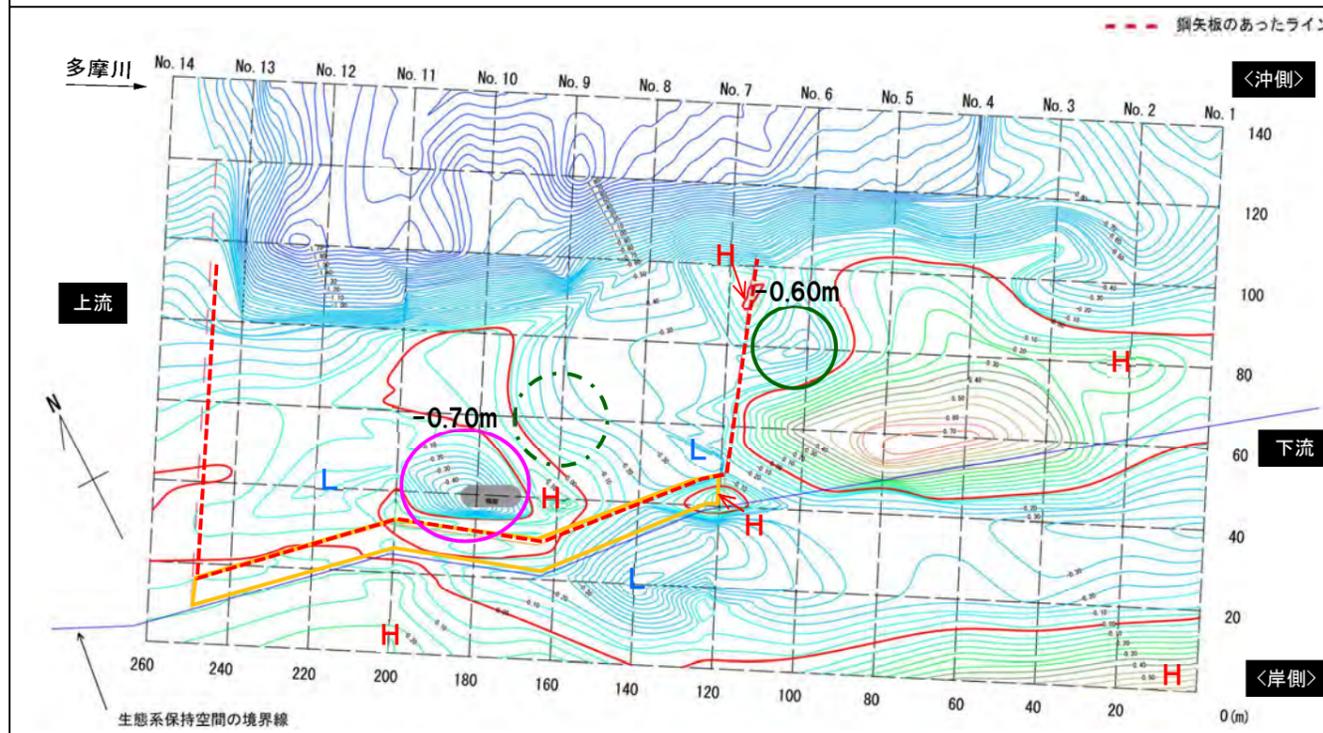
第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要



R4.10月干潟等深線図



R5.5月干潟等深線図



R5.10月干潟等深線図

- R4年度 凡例
- | | | | | | |
|-------------------|-------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| H : A.P.=0m 以上の範囲 | L : A.P.=0m 未満の範囲 | | | | |
| — A.P. +0.80 | — A.P. +0.50 | — A.P. +0.20 | — A.P. -0.10 | — A.P. -0.40 | — A.P. -0.70 |
| — A.P. +0.70 | — A.P. +0.40 | — A.P. +0.10 | — A.P. -0.20 | — A.P. -0.50 | — A.P. -0.80 |
| — A.P. +0.60 | — A.P. +0.30 | — A.P. +0.00 | — A.P. -0.30 | — A.P. -0.60 | |

- R5年度 凡例
- | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| — A.P. +0.60 | — A.P. +0.30 | — A.P. +0.00 | — A.P. -0.30 | — A.P. -0.60 | — A.P. -0.90 |
| — A.P. +0.50 | — A.P. +0.20 | — A.P. -0.10 | — A.P. -0.40 | — A.P. -0.70 | — A.P. -1.00 |
| — A.P. +0.40 | — A.P. +0.10 | — A.P. -0.20 | — A.P. -0.50 | — A.P. -0.80 | — A.P. -1.10 |

図 1-4(2) 埋戻し前後の干潟地形変化

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

【参考】干潟部浚渫前～R1.5月の干潟地形変化

●東日本台風以前は、干潟部浚渫前、浚渫後ともに、細かな変化はあるものの、全体として大きな変化は確認されなかった。

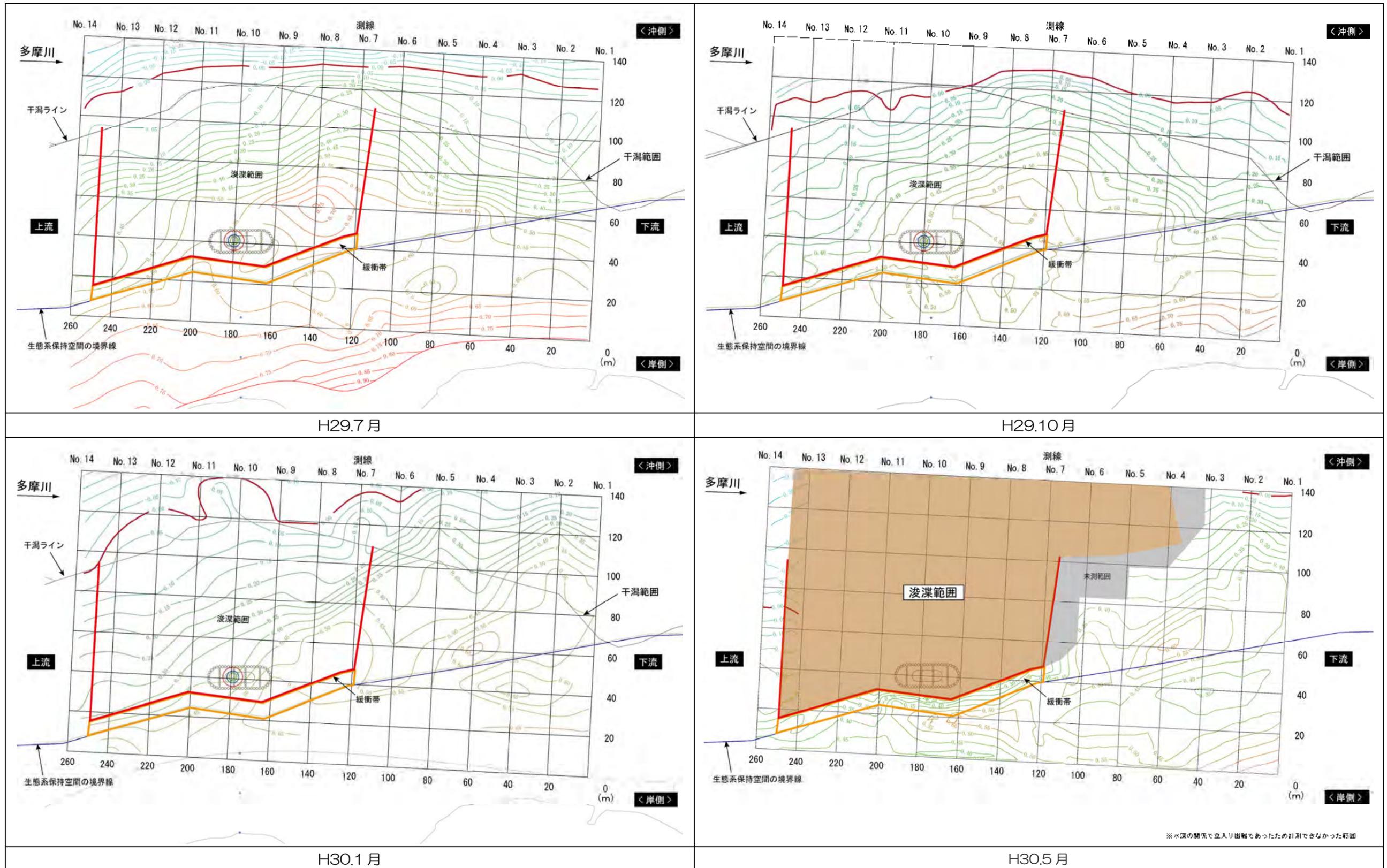


図 1-5(1) 干潟部浚渫前の地形変化

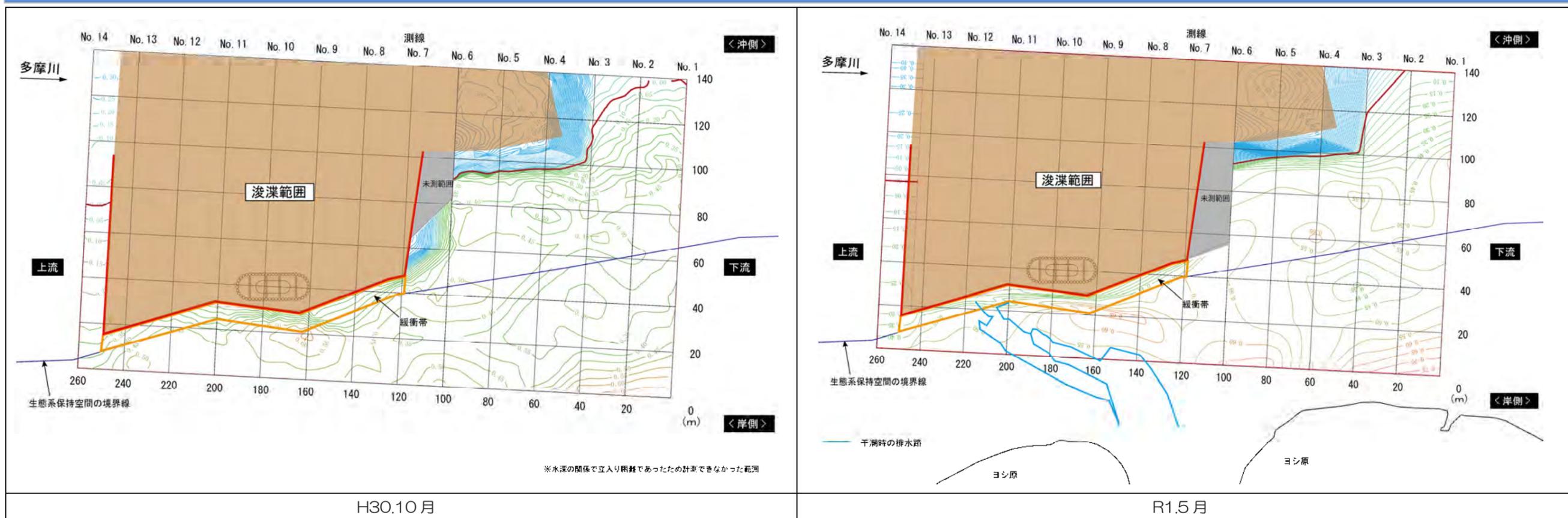


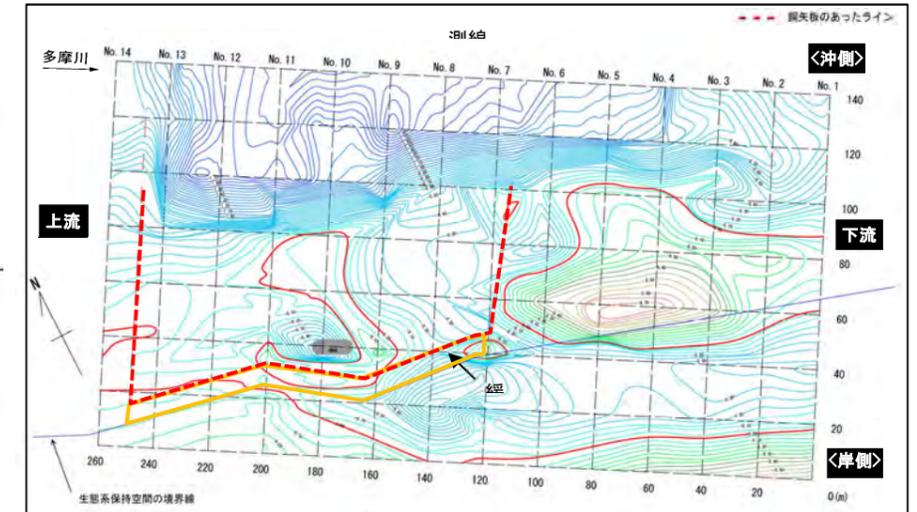
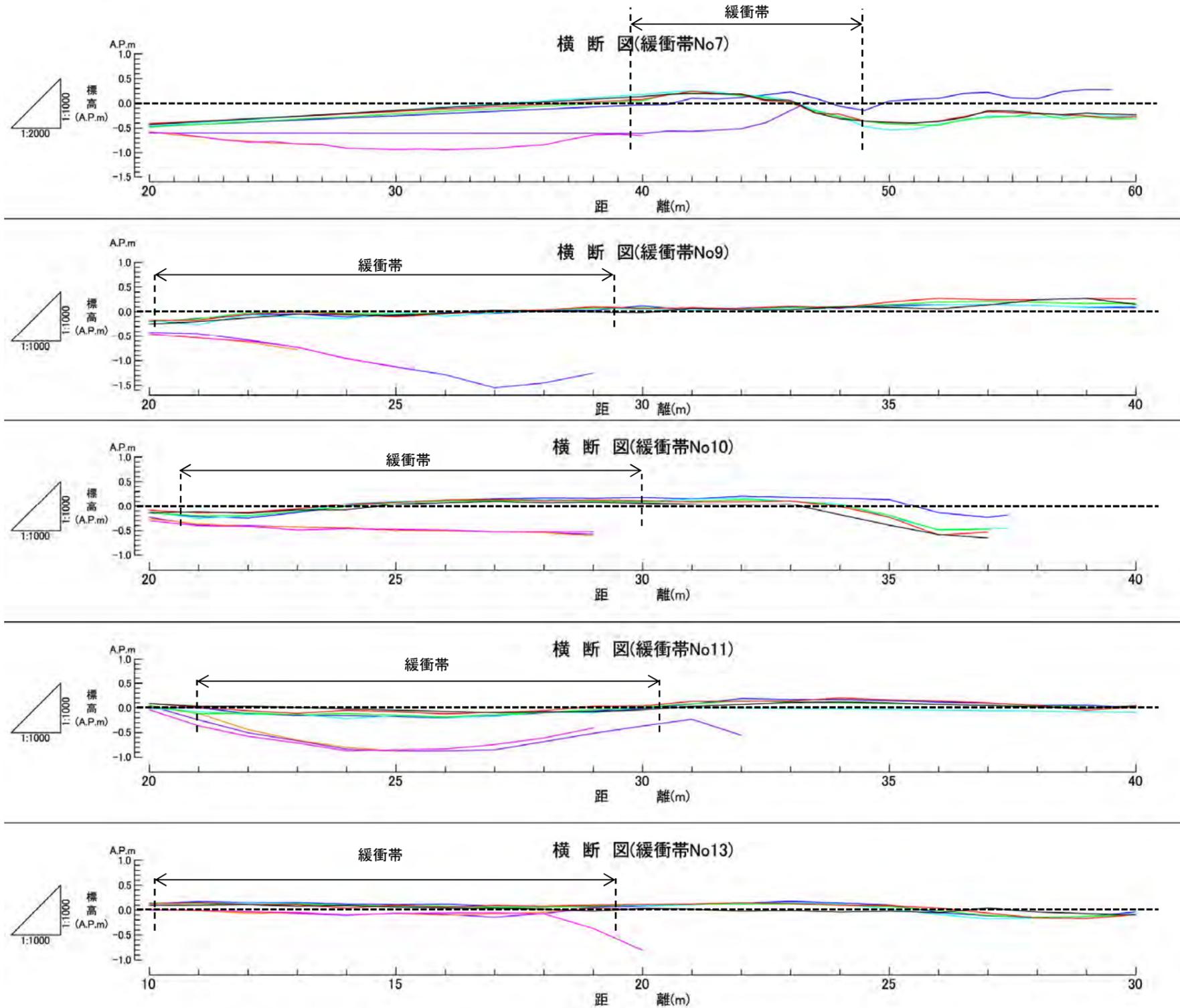
図 1-5(2) 干潟地形変化(平面図) / 干潟部浚渫後～R1.5月

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

■干潟地形：緩衝帯の状況

<概要>

- R3.7月の埋め戻し後、緩衝帯における地盤高に大きな変化はみられず、緩衝帯とその境界部に地盤高の差は生じていない（図1-7参照）。
- ・R5.10月時の緩衝帯における地盤高は、これまで同様にNo.7+40~46m、No.9+28~29m、No.10+24~30m及びNo.13ではA.P.=0mより若干が高い状況であった。一方、No.11は昨年同様にA.P.=0mより若干が低い状況であった（図1-7参照）。



- 凡例
- R02.05実施
 - R02.10実施
 - R03.05実施
 - R03.10実施
 - R04.05実施
 - R04.10実施
 - R05.05実施
 - R05.10実施

←埋め戻し
R3.7月

図1-7 緩衝帯地盤高の経時変化

第19回都市計画道路殿町羽田空港線ほか道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議 概要

2. 植物：ヨシ群落

(1) 調査目的

●ヨシ群落の推移状況を把握し、橋梁工事による影響、架設完了後や埋戻し完了後の影響を把握する。

(2) 調査内容

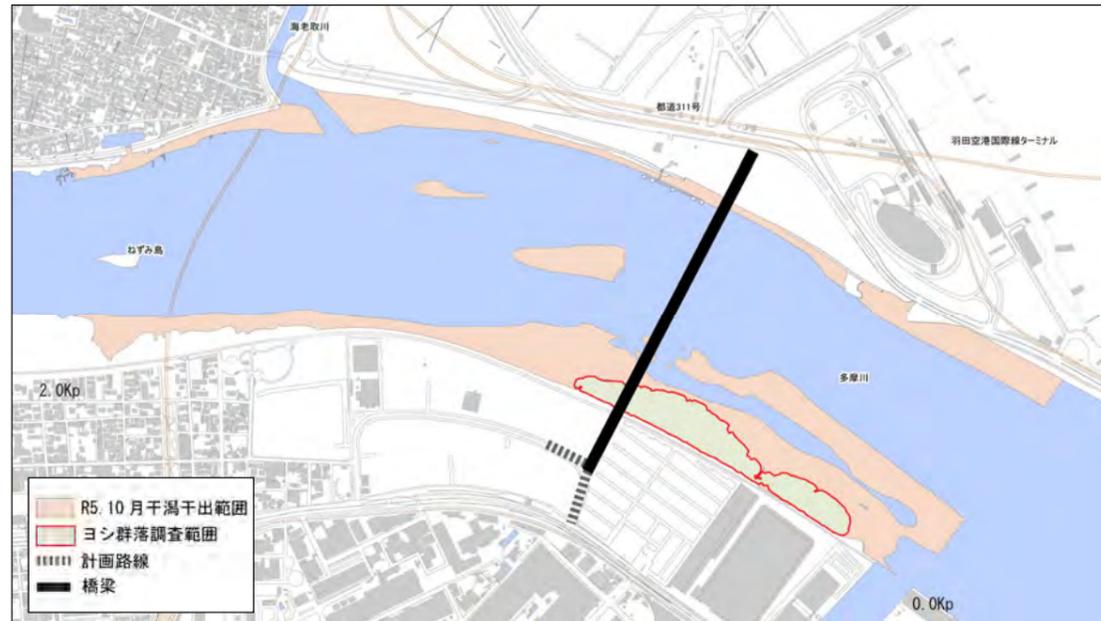
●秋季：ヨシ群落の生長状況及び群落範囲を把握

(3) 調査手法

●秋季：ヨシ群落の草高の把握（測桿による草高の記録）
ヨシ群落の群落範囲を把握（GPSによる群落形状の記録）

(4) 調査地点

●計画区間周辺のヨシ群落



(5) 調査時期

●ヨシ群落の生長状況を把握するために、秋季は令和5年10月2日に実施した。

項目	回数	調査実施日	2023年(令和5年)												2024年(令和6年)			調査内容	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
植物	1回	秋季：令和5年10月2日							●										ヨシ群落推移状況

●：調査実施

(6) 調査結果

1) ヨシ群落の推移状況

●R5年度秋季は、R4年度秋季より460㎡の増加した。
(河道方向へ若干の拡大、→ 箇所が拡大)
●東日本台風(R1.10月)による大規模出水により、R2年度秋季以降もヨシ群落内に土砂や流出物の堆積が残っていたが、ヨシ群落は徐々に勢力を拡大してきた。R3年度からR5年度に大規模な出水が無かったことが、群落面積増加の一因と考えられる。



図3-1 ヨシ群落推移状況

2) ヨシ群落の草高の変化

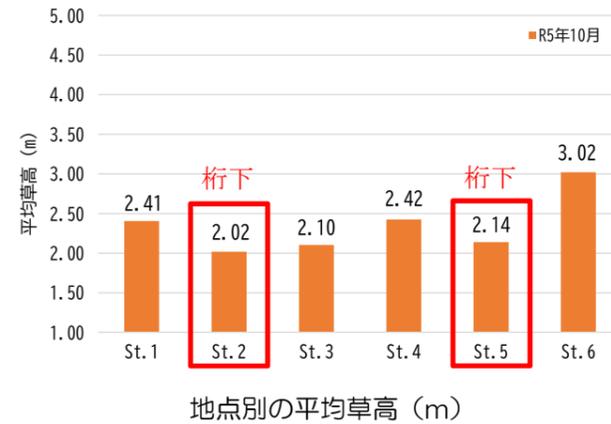
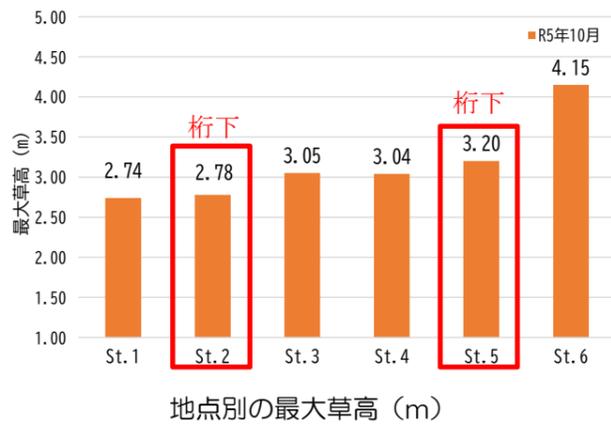
<全体>

●R4 年度秋季と比較すると、St.6 の平均草高を除く全ての地点・項目で R5 年度秋季の方が高かった。特に橋梁桁下の St.2 では平均草高が約 30cm、St.5 では約 20cm 高くなった。橋梁桁下だけでなく St.6 を除く上流側・下流側の地点でも高くなっているため、気象条件等に起因する差であると考えられる。なお、St.6 の平均草高が R4 年度秋季よりも低い理由は、アレチウリによる被圧が原因と考えられる。

<橋梁桁下の地点>

- R5 年度秋季、橋梁桁下の St.2 及び St.5 の最大草高はそれぞれ 2.78m 及び 3.20m、平均草高はそれぞれ 2.02 及び 2.14m であり、R4 年度秋季よりも高い結果であった。
- 平均草高については、St.2 及び St.5 とも昨年同様に上・下流側地点より低い傾向であった。

・ヨシ原の計測結果表（令和5年10月測定結果）



<参考：ヨシ原の計測結果表（R5 年度測定結果）>

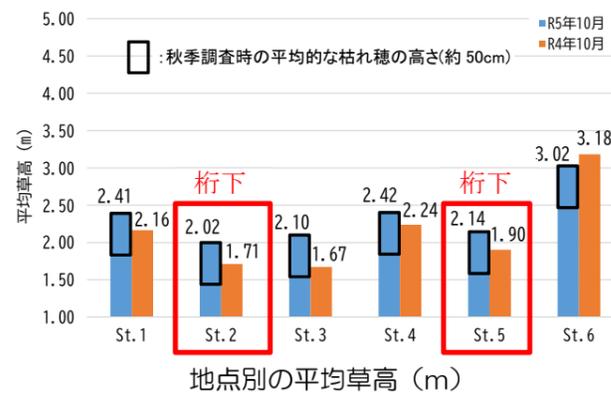
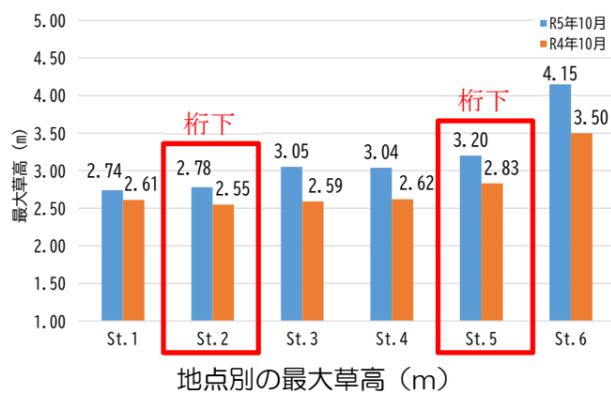
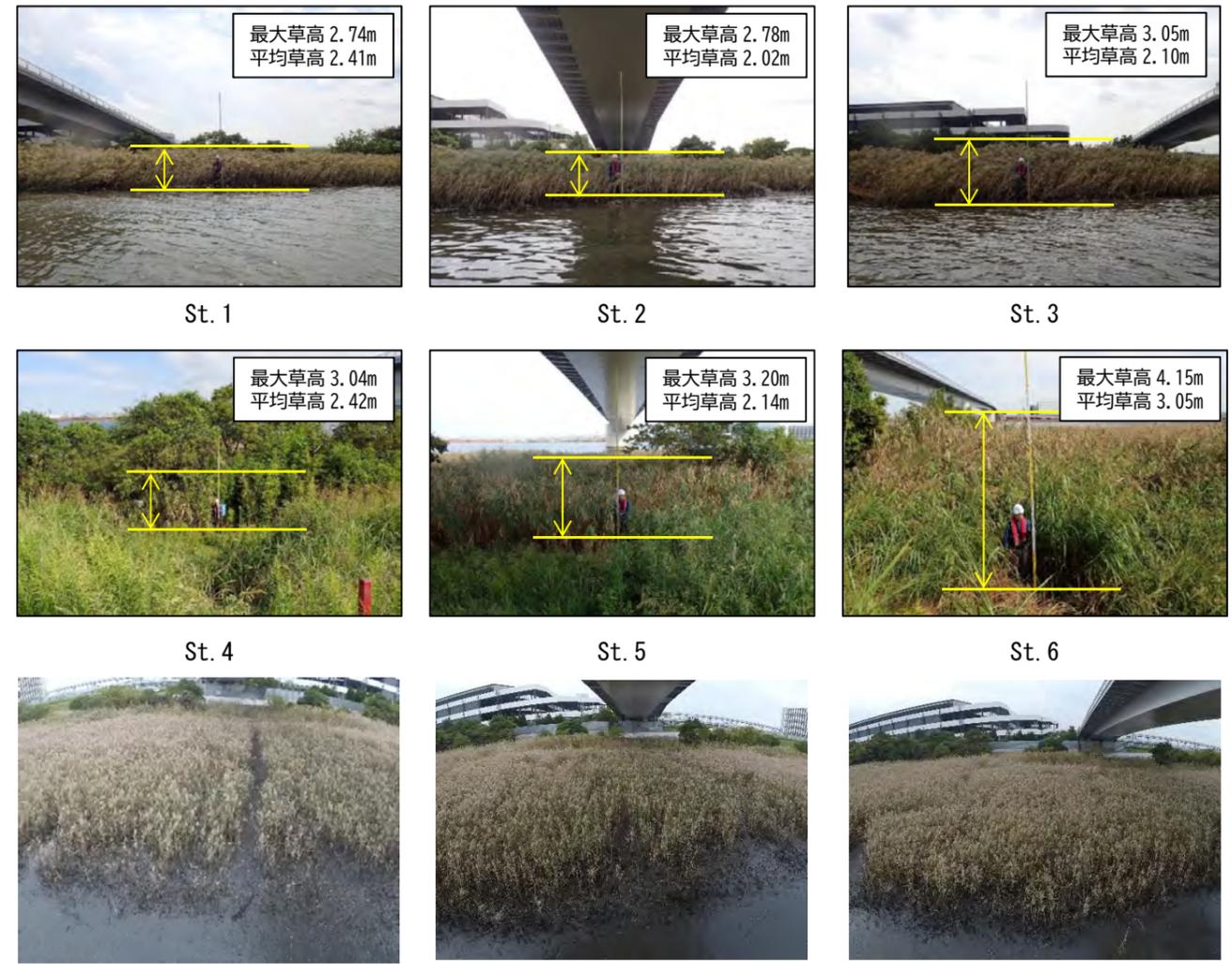
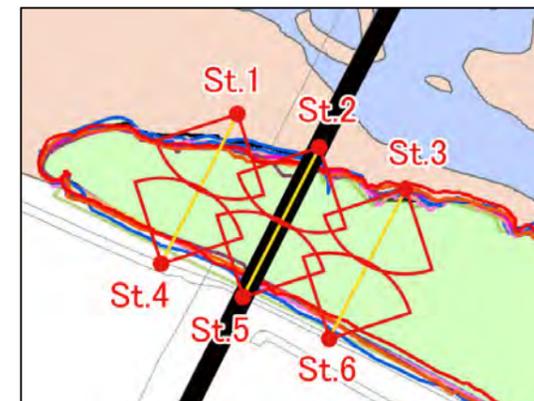


図 3-2 ヨシ群落の草高

・ヨシ原の計測写真



※ヨシが風等で斜めに生育しているため、実際の長さとは写真の見栄えとは、相違があります。
写真 ヨシ群落 各地点の草高と群落の状況（R5 年度秋季）



注 1) 各地点からの扇形の範囲は、前掲の写真に映っている概ねの範囲を表しています。
注 2) 各地点の近傍に生育しているヨシを対象として草高を計測しています。特に橋梁下の St.2 及び St.5 は橋梁中央の真下にある個体を計測しています。

図 3-3 ヨシ群落の草高 調査地点位置図